

弘法大師こうぼうだいし空海くうかいゆかりの地

かつての有田川町は、空海が高野山を開く前に修行した場所と伝えられており、町内各地には空海にまつわる伝説が多く残されています。

西丹生図の石ヶ谷地蔵磨崖まがいぶつ仏は、崖の岩を削って作られた地蔵であり、県内でも珍しい物です。この地蔵には、空海がこの地を訪れた際に彫刻したという伝説が残されています。徳田にある湧き水は、空海が見つけたという伝承があり、弘法井戸と呼ばれています。また、井口の法蔵寺ほうぞうじは弘法大師を本尊とする寺であり、「お大師さん」と呼ばれています。

8月20日の夜には、弘法大師の縁日の前夜祭に打ち上げられる奉納花火（二十日の晩会）が行われています。江戸時代の文久元年（1861年）ごろから続く伝統行事であり、長年にわたり夏の風物詩として地域住民に親しまれています。



弘法井戸（徳田）

ススキの草原で有名な生石山も空海に関わる伝説が多い場所です。空海は、現在の興禪寺こうぜんじ（本堂）付近に草庵そうあんを構えて笠石かさいしへ通って修行したと伝えられています。笠石は、生石山の山頂付近にある巨岩で、空海が高野山を見つけたあまりのうれしさから旅笠を忘れて出立してしまい、忘れた笠が岩となって笠石と呼ばれるようになったと伝えられています。硯水すずりみずと呼ばれ、貴重な植物が成育することで知られている湿原は、空海が硯の水をとるために掘ったところ、清水が出たという伝説が残る場所です。沼地区の桜峠は、空海が修行中に植えた桜が大きく育ち、見事な花を咲かせたことから、その名が付いたと言われています。板尾の岩坂観音は、空海が美作国みまさか（今の岡山県）で彫刻した十一面観音像を船に乗せて飛ばすと、この山に着き、後に空海がこの地を訪れた際に自分の彫刻した観音像がまつられていることを喜び、お堂を建てて美作山ほうせんじ法仙寺と名付けたと伝えられています。生誕1250年を機会に、改めて各地に残る空海の足跡を訪ねてみてはいかがでしょうか。



笠石（生石高原）



法仙寺（板尾）